

2025 年度
東京大学大学院情報学環
教育部シラバス

メディア・ジャーナリズム論講義 I

瀬川 至朗 特任教授

S1S2 ターム 金曜 5 限 (2 単位) 時間割コード : 5A101001

授業の目標・概要

"インターネットが普及した今日のメディア環境のなか、「ジャーナリズム」と「マスコミ」の乖離が進んでいるように見える。経営に余裕がなくなった新聞、テレビなどのマスメディアはマネタイズを強く意識し、公共圏の構築に貢献するというジャーナリズム本来の機能を果たしにくくなっている。また、「フェイクニュース」や偽・誤情報の問題が社会的に大きな関心を集めており、SNS 時代におけるジャーナリズムのあり方が議論されるようになってきた。

本授業では、ネットの情報生態系を学んだり、さまざまな報道事例を分析したりしながら、SNS 時代に、良質で信頼されるジャーナリズムを実践するには、何が必要かを考える。新聞記事を題材としたワークと議論のほか、テレビ番組、映像作品も視聴し、理解を深めていく予定だ。

【授業の到達目標】受講生全員のメディア・リテラシーの涵養を図り、SNS の情報やマスメディアの報道を批判的に読み解く力を養う。また、将来、メディアの世界での仕事を考えている学生にとって、ジャーナリズムの思想や歴史、現実について体系的な理解を得られるようにする。"

教科書

なし

参考書

ビル・コバッチ、トム・ローゼンステール (2024) 『ジャーナリストの条件—時代を超える 10 の原則』(澤康臣訳、新潮社)

Kovach, B. and T. Rosenstiel (2021), "The Elements of Journalism : What Newspeople Should Know and the Public Should Expect," Updated 4th Edition. Crown

瀬川至朗 (2017) 『科学報道の真相 —— ジャーナリズムとマスメディア共同体』(ちくま新書)

授業計画

- | | | |
|--------|------|----------------------------------|
| 第 1 週 | 4/18 | ガイダンス： ニュース価値 ニュースとは ジャーナリズムとは |
| 第 2 週 | 4/25 | 「フェイクニュース」問題とネット情報生態系 |
| 第 3 週 | 5/2 | SNS の情報とマスメディアの報道——兵庫県知事選を事例に考える |
| 第 4 週 | 5/9 | ニュースの読み方／ニュース生産過程を学ぶ |
| 第 5 週 | 5/16 | 偽・誤情報対策としてのファクトチェックを学ぶ |
| 第 6 週 | 5/30 | 問題報道の構造——捏造・誤報 |
| 第 7 週 | 6/6 | 戦争とジャーナリズム① 大本営発表報道と抵抗の言論人 沖縄戦 |
| 第 8 週 | 6/13 | 戦争とジャーナリズム② ベトナム戦争と日本人ジャーナリスト |
| 第 9 週 | 6/20 | 国家機密・リークとジャーナリズム |
| 第 10 週 | 6/27 | 「客観報道」と「中立報道」はなぜジャーナリズムの原則ではないのか |
| 第 11 週 | 7/4 | 「記者クラブ」問題 |

- 第12週 7/11 ナショナリズムとメディア ―― 日中関係、日韓歴史認識
- 第13週 7/18 これからのジャーナリズムを考える

メディア・ジャーナリズム論講義Ⅵ

(体験的・実践的ジャーナリズム入門)

福永 宏 講師

(元・読売新聞社／元・東洋経済新報社／同窓会副会長)

A 1 ターム 水曜 5 限 水曜 6 限 (2 単位) 時間割コード : 5A101006

授業の目標・概要

東京大学新聞研究所・社会情報研究所・情報学環教育部同窓会が主宰する教育部 OB による講義である。現在、新聞、放送、雑誌などのいわゆる「既成メディア」は、知識人、種々の政治勢力、統治権力、一般大衆などさまざまな方面から批判を受けている。これはわが国のみならず、米国でもみられるように世界的な現象といえる。さらに、経済的にもネットメディアに追い上げられて部数、視聴率、広告収入などの経済的な面がかつてない厳しい状況に直面しており、こうした傾向は今後、さらに強まると考えられる。そこで本講義では、ネットメディアを含むジャーナリズムやメディアの現場で活動している本教育部出身者が自らの直接的な体験を踏まえ、現在の言論界の状況やジャーナリズムが置かれている実情を紹介・解説し、受講者と討論する。将来、メディアやジャーナリズム分野へ進もうと考えている者はもちろん、他分野への就職を考えている研究生にとっても、「現在」を理解するために有益な体験となるであろう。

教科書

なし

参考書

なし

授業計画

毎回、教育部 OB のゲスト講師が交代で、自ら現場で関わってきた新聞、放送、雑誌・出版、広告および報道一般の幅広いテーマを講義する。

メディア・ジャーナリズム論講義Ⅸ

(ジャーナリズムと現代社会の関係を考える)

大門 小百合 講師

A1A2 ターム 火曜4限(2単位) 時間割コード: 5A101009

授業の目標・概要

講師は英字新聞ジャパンタイムズの元編集局長。ニュースは人々の生活に密接に関わっている。この授業では、ニュース記事はどのように作られ、発信されるのか、ジャーナリズムが果たす役割、社会との関係について、国際的な事例も交えながら多角的に考察する。また、実際にジャーナリストになったつもりで記事を書くことにより、情報をどう読み解き、整理し、伝えるかなど、発信する側になった際に留意しなければならないことについても学習する。

教科書

なし

参考書

新聞社のニュースサイト

『The Japan Times 報道デスク発グローバル社会を生きる女性のための情報力』大門小百合、2013年、ジャパンタイムズ出版

『ニュースの未来』石戸諭、光文社新書

『映画 で学ぶジャーナリズム～社会を変える報道のしくみ』別府美奈子、飯田裕美子、水野剛也編著、2023年、勁草書房

授業計画

- | | | |
|------|-------|---------------------------------------|
| 第1週 | 10/7 | ニュースとは何か? |
| 第2週 | 10/14 | 政治とメディア |
| 第3週 | 10/21 | デジタル時代のメディアリテラシー(ファクトチェック専門家のゲスト講師予定) |
| 第4週 | 10/28 | テレビ報道について(フジテレビのゲスト講師予定) |
| 第5週 | 11/4 | 英文メディアの役割 |
| 第6週 | 11/11 | インタビューを通して学ぶ |
| 第7週 | 11/18 | インタビュー記事作成 |
| 第8週 | 12/2 | 身近な社会問題をニュースとして考える |
| 第9週 | 12/9 | 取材して記事を書く(1) |
| 第10週 | 12/16 | 国際報道の現場(海外特派員のゲスト講師予定) |
| 第11週 | 12/23 | 戦争とジャーナリズム |
| 第12週 | 1/6 | NGOから見た国際援助活動(国際NGO日本代表のゲスト講師予定) |
| 第13週 | 1/13 | メディアとジェンダー&まとめ |

メディア・ジャーナリズム論講義X

大島 新 講師

A1A2 ターム 火曜5限(2単位) 時間割コード: 5A101010

授業の目標・概要

テレビと映画で数多くのドキュメンタリーを制作してきた講師が、自らの体験をもとにドキュメンタリーの魅力や意義、可能性について、みなさんと議論しながら考えていきます。

受講生のみなさんには、毎回異なるドキュメンタリーを視聴してもらい、作品についてディスカッションをします。ドキュメンタリーを観て、語ることによって「今の社会を知る」「自分の考えを深める」ことが目標です。

教科書

なし

参考書

「ドキュメンタリーの舞台裏」(大島新著・文藝春秋刊)

授業計画

第1週 ガイダンス・ドキュメンタリー制作の実際について

第2週 メディアの自画像

第3週 社会を映すドキュメンタリーⅠ

第4週 社会を映すドキュメンタリーⅡ

第5週 社会を映すドキュメンタリーⅢ

第6週 調査報道の達成Ⅰ

第7週 調査報道の達成Ⅱ

第8週 人物ドキュメンタリーの魅力Ⅰ

第9週 人物ドキュメンタリーの魅力Ⅱ

第10週 集団の取り組みを記録する

第11週 アーカイブドキュメンタリーとは

第12週 海外のドキュメンタリーを観るⅠ

第13週 海外のドキュメンタリーを観るⅡ

メディア・ジャーナリズム論研究指導Ⅱ

(災害情報・調査法：東京電力福島第一原子力発電所事故の調査・研究)

関谷 直也 教授

通年 集中(4単位) 時間割コード：5A103002

授業の目標・概要

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故から13年が過ぎました。この震災、原子力事故の被害、復興の課題、困難をどのように伝えていくか、これは非常に大きな課題です。

ジャーナリズムを学ぶみなさんにとっても、この課題は今後数十年続いていくことになりますし、現在の課題を理解しておくことは、また①福島原発事故や東日本大震災の教訓をどう伝え、今も残る課題にどう対処すべきか、②今後の災害や危機を考える上で基礎として、③さかのぼって広島・長崎の原爆、沖縄問題などをどう考えていくべきかを考える契機にもなる非常に重要なタイミングだと考えています。

この演習では、夏休みの3日間に福島県浪江町、大熊町、双葉町ほかを訪れ、調査を行いたいと思います。

前提知識は必要としませんが、研究指導ですので本テーマに関心・興味があることを前提とします。

教科書

授業中に指示

参考書

授業中に指示

授業計画

下記、(1) ガイダンス、(2) 現地フィールドワーク全日程に参加することを条件とする。

(1) ガイダンス

未定

(2) 現地フィールドワーク及び講義

9月8日～10日(※7日前泊も可。この日がNGの場合は履修をしないこと)

メディア・ジャーナリズム論実験実習Ⅲ

(ドキュメンタリー制作実習)

日笠 昭彦 講師

(元日本テレビ「NNNドキュメント」プロデューサー・LLC創造ノ森 代表)

A1A2 ターム 木曜6限(4単位) 時間割コード: 5A104003

授業の目標・概要

今年は日本で放送が始まって100年という節目の年です。

正確性と速報性を求められるニュース、有名タレントを配しアイデアを駆使して企画されるバラエティー、時間と予算をかけて作られるドラマなど様々な番組の中でドキュメンタリーは少人数でも比較的取り組みやすい分野です。

その一方で、

- ・自らの関心や疑問から発想を広げ、それを映像と音で表現する力
- ・社会に潜む課題に目を向け、綿密な取材に基づいて検証していく力
- ・人の心の中に分け入って真実を引き出す深い洞察力 など多様で繊細な力が求められます。

実際にドキュメンタリーを制作しながら映像ジャーナリズムの本質を学んでいくのが、この授業の最大の特徴です。

実習の進め方としては、まず受講者全員から企画を募って取材するテーマを選考。

その後は、ドキュメンタリー制作歴30年以上の講師が随時助言を行いながら、グループ単位で【リサーチ～取材交渉～撮影～構成～編集～ナレーション収録】などを行っていきます。

4か月間で20～30分程度のドキュメンタリーを制作しますが、週に1度の授業は、グループ単位で進める様々な作業の進捗状況を確認・修正する場です。制作工程が前進していることが前提となります。チーム内でアイデアを持ち寄って議論しながらより良い作品にしていくことも大切な要素です。決して人任せにせず主体的に取り組んでください。

単位取得の最低条件は毎回の出席ですが、主な制作活動は【教室の外】で【授業の時間外】に行います。そうした時間を確保できない人は、履修は難しいと考えてください。

「撮影した1カット1カットが何層にも重なり、それがストーリーを紡いで観る者の心を揺さぶる」そんな番組制作の醍醐味をぜひ体感してみてください。

＊優れた作品は「東京ビデオフェスティバル」「地方の時代映像祭」など、各種コンクールに出品して客観的な評価を得ます。

教科書

特になし

＊講師が制作に携わったTV番組やニュース企画、過去の学生の作品 等

参考書

「映像メディアのプロになる！」奥村健太・藤本貴之著／藤原道夫監修（河出書房新社）

「書く力～私たちはこうして文章を磨いた～」池上彰・竹内政明 著（朝日新聞出版）

授業計画

- 10/2 ガイダンス「実習授業の概要と進め方」「ドキュメンタリーとは何か？」
- 10/9 講義「ドキュメンタリーの作法①企画・リサーチ編」
- 10/16 メディアスタジオ（情報学環本館 7 階）にて撮影機材のトレーニングワークショップ
- 10/23 受講者による企画案の発表～投票による企画の選考
- 10/30 班ごとに構成要素の洗い出しと役割を決定、講義「ドキュメンタリーの作法②撮影編」
- 11/6 休講 ＊この間にリサーチ、及び取材対象者への出演交渉を進める
- 11/13 班ごとに番組の構想を発表～構成会議、講義「ドキュメンタリーの作法③インタビュー編」
- 11/20 班ごとに構成会議～講義「ドキュメンタリーの作法④編集・仕上げ編」
- 11/27 休講 ＊この間に撮影・編集を進める
- 12/4 班ごとに構成会議
- 12/11 講師による中間試写～追加取材～再構成
- 12/18 講師による中間試写～追加取材～再構成
- 12/25 講師による中間試写～追加取材～再構成
- 1/8 講師による最終試写～完成に向けて精査
- 1/15 講師による最終試写～完成に向けて精査
- 1/22 全員による完成試写 ☆作品の上映と講評～制作実習のふりかえり

講義は、福武ラーニングスタジオ 3（福武ホール B2 階）にて「対面」で実施します

注）履修するためには 10 月 9 日（木）18:45（授業開始時刻）までに履修登録を行ってください

＊撮影機材のトレーニングワークショップやグループ分けを行ったうえで実習に入るため、他の講義より履修登録の締め切りが早くなっています。

情報産業論講義Ⅱ

(人生 100 年時代の「ウェルビーイング・マーケティング」)

大高 香世 講師 (博報堂)

A1A2 ターム 月曜 5 限 (2 単位) 時間割コード : 5A201002

授業の目標・概要

他人事ではない、人生 100 年時代。なんと、2007 年に日本で生まれた子どもの 2 人に 1 人は 107 歳より長く生きると推計されています。生き方の大きな変革が求められる中、社会のあり様と同時にマーケティング・コミュニケーションのあり方も変わりつつあり…その 1 つの解が「ウェルビーイング・マーケティング」という新しいフレームワークです。

ウェルビーイング (Well-being) とは、人が身体的・精神的・社会的に“よい状態”が続くことを指す概念ですが、ビジネスの現場でも取り入れられるようになってきました。

「モノを売るためのマーケティングから、人をしあわせにするマーケティングへ」
～この講義ではこれからの時代のマーケティング・コミュニケーションと生活者発想を学ぶとともに、あなた自身のしあわせな生き方についても発見していけるような体験ご提供します。また、新時代に欠かせないビジネススキルも伝授します。

授業は全てワークショップ形式。一方通行ではない参加型の講義と演習で、楽しみながら共に成長を実感しましょう！

(株)博報堂にてマーケター歴 30 年、ファシリテーター歴 20 年、会社経営 10 年、研究所所長歴 2 年、という異色の経歴をもつ講師がみなさまをナビゲートします。

教科書

授業毎に随時ご案内します

参考書

「L I F E S H I F T (ライフ・シフト) ～100 年時代の人生戦略」

リンダ・グラットン氏、アンドリュー・スコット氏

「ウェルビーイング」

前野隆司氏、前野 マドカ氏

「フルライフ～今日の仕事と 10 年先の目標と 100 年の人生をつなぐ時間戦略」

石川善樹氏

授業計画

#1 : 日本の社会課題と人生 100 年時代のキャリアデザインを探索しよう

#2 : 100 年人生ゲームを遊んでわたしのウェルビーイングを考えよう

#3 : マーケティング・コミュニケーションの変遷と現在地を確認しよう

#4 : 新潮流「ウェルビーイング・マーケティング」を学ぼう

- #5： ウェルビーイング・マーケティングの実践者に聴こう
- #6：新しいマーコムに必須な思考法を身につけよう
～ロジカルシンキング×ラテラルシンキング=WOW
- #7：新しいマーコムに必須な発想法を身につけよう
～イノベーション創発手法
- #8：新しいマーコムに必須な拡散法を身につけよう
～PR（パブリック・リレーションズ）発想による合意形成
- #9：人生100年時代に必須な能力を身につけよう
～ファシリテーション型リーダーシップ
- #10：みんなで未来社会のウェルビーイングマップを創ろう
- #11：ウェルビーイングな商品やサービスのアイデアを創発しよう
- #12：未来社会のウェルビーイングマップを発表しよう
- #13：拝啓、わたしとみんながしあわせになる世の中へ

※ゲストなどの都合により日程や内容を変更する場合があります

開講日：10月6日（月）】

毎週月曜日 16:50～18:35

- #1：10/6
- #2：10/20
- #3：10/27
- #4：11/6(木)←この日だけ木曜日になります。
- #5：11/10
- #6：11/17
- #7：11/25←この日だけ火曜日になります。
- #8：12/1
- #9：12/8
- #10：12/15
- #11：12/22
- #12：1/19
- #13：1/26

※都合により変更する場合がありますのでご了承ください。

情報産業論実験実習IX

(出版の現在・過去・未来)

藤平 歩 講師 (中央公論新社)

S1S2 ターム 木曜 6 限 (4 単位) 時間割コード : 5A204009

授業の目標・概要

NHK大河ドラマ「べらぼう」に描かれるように、出版は江戸時代には最先端のメディアでした。その後は、時代の変遷とともに、発展から成熟、そして縮小への軌跡を辿ってゆきます。現在、市場規模では、紙と電子合わせても、1996年のピーク時の6割にまで減少、右肩下がりのトレンドが続いています。

本講では、出版の縮小・退潮の時代に実務に携わってきた講師の知見をもとに、出版界の現状とその未来について考察していきます。各種指標や報道、経済産業省による書店振興プロジェクトなど最新の動きを参照しながら、出版の将来性、可能性を見極めることを目的とします。さらにゲストスピーカーを招いて、本とその周辺についての理解を多角的に深めることとします。

教科書

なし

参考書

随時、紹介します。

授業計画

第1週 ガイダンス (受講生各自の本および書店との接し方について、自己紹介を兼ねて話していただきます)

第2週 本ができるまで (企画・設計・コスト)

第3週 本が届くまで (流通・書店)

第4週 出版社とは (大手出版社、ひとり出版社。ゲストスピーカーを予定。ゲストの都合により、日程は入れ替わる可能性があります)

第5週 本と出会う場所 (書店・図書館・ブックイベント。ゲストスピーカーを予定。ゲストの都合により、日程は入れ替わる可能性があります)

第6週 校正・校閲について (出版を支える影の立役者)

第7週 装丁とは (造本・イラスト・写真)

第8週 著作権 (翻訳、映像化、グッズ)

第9週 本を書く人 (ノンフィクション、小説。ゲストスピーカーを予定。ゲストの都合により、日程は入れ替わる可能性があります)

第10週 読者に向けて (広告・書評・SNS)

第11週 企画の立て方 (課題例:「昭和100年」を考える)

第12週 模擬編集会議1 (受講者が、企画書をもとにプレゼンテーションを行います)

第13週 模擬編集会議2 (受講者が、企画書をもとにプレゼンテーションを行います)

情報社会論講義Ⅱ

(災害情報論・基礎論)

関谷 直也 教授

S1S2 ターム 月曜4限(2単位) 時間割コード: 5A301002

授業の目標・概要

本講義は、情報学環にある総合防災情報研究センターの教員がオムニバスで講義を行う。

災害情報の研究は、1970年代に東海地震説が提起された際に、地震研究所から情報学環の前身(社会情報研究所)の前身である新聞研究所に対して共同研究の依頼があったことに端を発する研究であり、本学環オリジナルの研究分野である。災害情報として東海地震が仮に予知可能になった場合に災害情報を人々にいかに伝えて、人の命を救うかが当初の課題であった。その後、「災害と情報」研究班が組織され、流言やパニックの研究、気象災害の情報、安否情報の研究など多面的に展開され、1999年には日本災害情報学会が設立され、2008年には総合防災情報研究センターが設置された。

総合防災情報研究センター教員は、地震研究所、生産技術研究所、情報学環を基に設置され、地震学、防災工学、社会情報学など様々な分野の教員からなる。なお全員が、「情報」「メディア」「コミュニケーション」などを直接の研究分野としている訳ではないが、これも情報学環の一つの研究分野であると理解され、受講を検討されたい。

本講義はオムニバス講義として、総合防災情報研究センター所属の教員が1コマの中で各自の研究分野に関連する学部2～3年生向けの講義として実施される

教科書

特になし(各担当教員が指示する)

参考書

特になし(各担当教員が指示する)

授業計画

順序、講義名目は変更される場合があるので、注意すること。

初回はガイダンスのみで終わる予定である。

4/7(月) 関谷直也(総合防災情報研究センター長)

ガイダンス

4/14(月) 目黒公郎(都市震災軽減工学、国際防災戦略研究)

防災概論

4/21(月) 関谷直也(災害情報論、社会心理学)

災害心理学

4/28(月) 関谷直也(災害情報論、社会心理学)

災害情報論

5/12(月) 三宅弘恵(地震学、強震動地震学)

地震と防災

- 5/19（月）酒井慎一（地震学、固体地球物理学、観測地震学）
観測データに基づく都市防災
- 5/26（月）中丸 和（教育学）
災害と教育
- 6/ 2（月）開沼 博（社会学、情報行動論）
ふくしま論（仮）
- 6/ 9（月）大原美保（災害リスク軽減学）
被災地調査から考える災害レジリエンスの現状
- 6/16（月）大和田新（ゲストスピーカー、元ラジオ福島アナウンサー）
福島を伝える
- 6/23（月）地引康人（政治学、災害研究）
国際防災ガバナンス
- 6/30（月）沼田宗純（工学、防災プロセス工学）
防災プロセス工学
- 7/ 7（月）石橋真帆（社会心理学、リスクコミュニケーション）
リスク・コミュニケーション
- 7/14（月）予備日

情報社会論文献講読Ⅱ

(情報法学と神経法学)

小久保 智淳 助教

S1S2 ターム 火曜4限(2単位) 時間割コード: 5A302002

授業の目標・概要

今日、私たちの生活は様々な情報技術によって支えられ、それらは社会における”インフラ”として機能しつつある。しかし、SNSと誤情報・偽情報の問題や、プライバシーにかかわる懸念など、情報技術にかかわる課題については未だ根本的な解決策の見通せない状況にある。さらに、近年では情報技術とも関係の深い、BMI: Brain Machine Interface (BCI: Brain Computer Interface) のような神経科学技術の研究開発が進展し、その社会実装が進められようとしており、新たな課題も生じつつある。本講義は、こうした情報技術・神経科学技術と法学の結節点として登場した融合領域的な学問である「情報法学 (Informational Law)」と「神経法学 (neurolaw)」について、輪講形式で基本的な理解を養うことを目的とする。なお、講読文献については初回の講義において受講者と相談の上決定する。具体的に、受講生は、指定された文献 (の全体または担当部分について) のレジュメ作成・報告を行い、また授業内でのディスカッションに参加することが求められる。また最終課題としてレポートの提出が求められる。

教科書

輪講形式のため、毎回文献を指示するため特にない。

講読の対象となる文献については、実際の受講者と相談の上で決定する。

詳しくは、第1回のイントロダクションで説明する。

参考書

詳しくは、第1回のイントロダクションで説明する。

授業計画

第1回 イントロダクション

第2回 情報法とは何か? (講義・講読文献の相談・決定)

第3回 情報法学文献講読①

第4回 情報法学文献講読②

第5回 情報法学文献講読③

第6回 情報法学文献講読④

第7回 情報法学文献講読⑤

第8回 神経法学とは何か? (講義・講読文献相談・決定)

第9回 神経法学文献講読①

第10回 神経法学文献講読②

第11回 神経法学文献講読③

第12回 神経法学文献講読④

第13回 課題発表・最終ディスカッション

情報社会論文献講読Ⅲ

(情報社会を批判的に読む)

安 ウンビョル 助教

A1A2 ターム 木曜 5 限 (2 単位) 時間割コード : 5A302003

授業の目標・概要

情報・メディア技術が人間の生活をより便利にするという期待、あるいはその技術は人間の幸福を増進する方向に「発展」してきたという認識は、いまなお根強く存在している。しかし、私たちがまさに現在、身をもって経験しているように、事態はそれほど単純ではない。今や、「人間が情報技術を利用する」という明確な主体―客体の関係は、もはや成立しにくくなっている。むしろ、メディアが私たちの身体を制約し、感覚器官の活動を歪め、人間そのものがアテンション・エコノミーのインフラとなりつつある。さらに私たちは、常に記録され、分析され、それに基づいて管理・予測されている。このような状況においては、「メディア技術は人間を幸福にするのか／疎外するのか」といった単一方向に還元される問いではなく、それが人間の精神や知覚の様式を「どのように」形成し、変化させているのか、また、技術の拡散と大衆化にどのような可能性があったのか、その可能性が実現できなかった条件とは何だったのかという問いへと転換されるべきではないだろうか。

本授業では、メディア技術が人間と結ぶ関係を批判的に探究し、私たちの主体性や抵抗の可能性について再考するために、質問や想像力を刺激してくれるいくつかの文献をともに読む。文献の多くは、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、時間・空間を変化させる新たな技術とマスメディアが普及した時期に書かれたもの、あるいは、デジタルメディアが支配する現代の問題意識の中で、その時期のメディアと人間の感覚変容を研究したものである。これらの文献は、メディアが消費者―観覧者―利用者の新しい知覚様式をいかに引き起こすのか、知識と情報の大衆化が全体主義の拡大に寄与してしまわないのか、デジタル技術が社会的・文化的な不平等関係にいかに影響するのか、といった問いを触発し、デジタルメディアの時代の我々に、重要な参考になるだろう。

受講生は、指定の文献および関連する論文等を読むとともに、担当部分のレジュメ作成・報告を行い、また授業内でのディスカッションに参加することが求められる。また、最終課題として、授業内容と関連するレポート課題の提出が課される。詳しくは、第 1 週目の授業（イントロダクション）で説明を行う。

教科書

マーシャル・マクルーハン (栗原裕・河本仲聖訳)『メディア論：人間の拡張の諸相』(みすず書房, 1987)
石田英敬『大人のためのメディア論講義』(筑摩書房, 2016)

参考書

授業中、適宜提示する。

授業計画

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 ヴァルター・ベンヤミン『ベンヤミン・アンソロジー』

第 3 回 ヴァルター・ベンヤミン『ベンヤミン・アンソロジー』

- 第4回 スーザン・バック＝モース『ベンヤミンとパサージュ論』
- 第5回 ガブリエル・タルド『世論と群衆』
- 第6回 ガブリエル・タルド『世論と群衆』
- 第7回 ジョナサン・クレリー『知覚の宙吊り：注意、スペクタクル、近代文化』
- 第8回 ジョナサン・クレリー『知覚の宙吊り：注意、スペクタクル、近代文化』
- 第9回 Rebecca Solnit, River of Shadows: Edward Muybridge and the Technological Wild West
- 第10回 Rebecca Solnit, River of Shadows: Edward Muybridge and the Technological Wild West
- 第11回 マーシャル・マクルーハン『メディア論』
- 第12回 マウリツィオ・ラッツァラート『記号と機械』
- 第13回 マウリツィオ・ラッツァラート『記号と機械』
- 第14回 最終ディスカッション

情報技術論講義Ⅱ

酒井 慎一 教授

A1A2 ターム 火曜 6 限 (2 単位) 時間割コード : 5A401002

授業の目標・概要

現代における最新の情報技術について、その基礎的な概念や最新の技術トピックをテーマとして、情報技術が産業や政策、社会、個人の生活に与えるインパクトを理解することを目指す。そして、それらの情報技術がもたらす社会的な問題や課題に対して意識を向け、その解決のために必要となる考え方を身に付ける。

そこで、実際に情報技術にかかわる企業で活躍されている方々をお招きして、最新の情報技術に関する講義を行う。さらに、その講義を元にして社会課題や将来展望等を見据えた議論を行う。

教科書

特になし

参考書

授業の前後で紹介することがあります

授業計画

- 第 1 回 概要
- 第 2 回 情報技術への期待と懸念
- 第 3 回 半導体は重要？
- 第 4 回 ERP システム
- 第 5 回 グローバル企業の AI 活用
- 第 6 回 半導体の理解とビジネスのコツ
- 第 7 回 情報通信技術の進歩の歴史
- 第 8 回 情報通信技術の進歩と社会
- 第 9 回 これまでの災害と情報技術
- 第 10 回 災害と情報技術のこれから
- 第 11 回 大規模言語モデルと生成 AI
- 第 12 回 スマートシティとデジタル政策
- 第 13 回 まとめ

ゲスト講師の都合により講義の順番や内容が入れ替わる可能性があります。

情報技術論講義Ⅸ

(ヒューマンコンピュータインタラクション概論)

濱田 健夫 特任准教授、ハウタサーリ アリ 特任准教授

S1S2 ターム 木曜 5 限 (2 単位) 時間割コード : 5A401009

授業の目標・概要

我々はテクノロジーに囲まれ日々の生活を便利に過ごすことができているが、テクノロジーを利用するためにはユーザとの間を取り持つインタフェースが不可欠である。ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) はインタフェースを介してどのようにコンピュータと関わり利用するかについて焦点を当てた学際的学問分野である。この分野の研究成果を知ることによってテクノロジーのデザイン手法を学ぶことができる。本講義では HCI に関する幅広い研究トピックスを交えてデザイン原理や方法論について紹介するとともに、バーチャルリアリティ (VR) 技術を使ったグループワークを通して、インタラクションデザインの実習を行う

教科書

必要があれば適宜指示する

参考書

『The Design of Everyday Things』, Don Norman

『オーグメンテッド・ヒューマン』, 暦本 純一

『VR は脳をどう変えるか? 仮想現実の心理学』, Jeremy Bailenson

授業計画

- 第 1 週 (4/10) オープニング, History of HCI
- 第 2 週 (4/17) User Interface / Experience / Interaction Design (UI / UX)
- 第 3 週 (4/24) Computer-Mediated Communication (CMC) and Affective Computing
- 第 4 週 (5/1) Extended Reality (XR): Augmented / Virtual / Mixed Reality (AR / VR / MR)
- 第 5 週 (5/8) Computer-Supported Cooperative Work (CSCW) and Social Media
- 第 6 週 (5/15) Human Augmentation / Cyborg / Wearable Computing
- 第 7 週 (5/29) Artificial Intelligence (AI) and Internet of Things (IoT) in HCI
- 第 8 週 (6/5) HCI Methodology (ゲストスピーカー)
- 第 9 週 (6/12) アイデア出し, チームビルディング
- 第 10 週 (6/19) Interaction Design in XR (1)
- 第 11 週 (6/26) Interaction Design in XR (2)
- 第 12 週 (7/3) Designing with VR
- 第 13 週 (7/10) Designing in VR
- 第 14 週 (7/17) Designing for VR
- 第 15 週 (7/24) 最終発表会

情報技術論実験実習Ⅱ

(東京大学制作展)

苗村 健 教授

通年 水曜4限(4単位) 時間割コード: 5A404002

授業の目標・概要

メディアやコンテンツの研究に取り組む学生を対象として通年で開講する。一般向けの展示会を開催するために、企画や運営上の役割を担い、ディスカッションを通して展示全般のプロセスを実践する。最終的には活動の概要をまとめたアーカイブ冊子を刊行する。

教科書

なし

参考書

なし

授業計画

企画運営のために、受講生はプロデューサー・マネージャー・ブランディング・会計・デザイン・会場・広報・アーカイブ・コピーなどの役割分担をする。原則として全員が作品制作に携わり、一般向けの展示会において臨場し、来場者からの生の声を聴くことを重視する。

授業はディスカッション形式とし、事前に進めた議論を全員が集まる授業の時間に確定させていく。
苗村健・渡邊英徳・笈康明の教授陣に加え、非常勤講師や特任研究員がサポートする。

特別講義V

(教育部概論)

上條 俊介 准教授

S1S2 ターム 水曜5限(2単位) 時間割コード: 5A701005

授業の目標・概要

情報学環を構成する多様な研究者が、おおむね2回ずつそれぞれの専門領域について概説する。なお、下記には学際情報学府における各研究者の所属コースが記されているが、講義のなかでコース全体の概説をするわけではなく、あくまで各自の専門領域についての講義となる。

情報学環の研究活動を知る貴重な機会であり、1年生はなるべく履修してほしい。

教科書

特になし

参考書

特になし

授業計画

- 第1週 4/9 山口 いつ子 (社会情報学コース)
- 第2週 4/16 山口 いつ子 (社会情報学コース)
- 第3週 4/23 雨宮 智浩 (先端表現情報学コース)
- 第4週 5/7 雨宮 智浩 (先端表現情報学コース)
- 第5週 5/14 上村 鋼平 (生物統計情報学コース)
- 第6週 5/21 上村 鋼平 (生物統計情報学コース)
- 第7週 5/28 渡邊 英徳 (文化・人間情報学コース)
- 第8週 6/4 渡邊 英徳 (文化・人間情報学コース)
- 第9週 6/11 蜂須賀 知理 (総合分析情報学コース)
- 第10週 6/18 蜂須賀 知理 (総合分析情報学コース)
- 第11週 6/25 予備日
- 第12週 7/2 予備日
- 第13週 7/9 予備日

特別講義VI

(教育部実験講義)

関谷 直也 教授、酒井 慎一 教授

通年 集中（2単位） 時間割コード：5A701006

授業の目標・概要

本講義は、教育部研究生とともに、学際的対象、学際的教育、学際的研究を考える。

新たに講義を作り上げていく実験的試みとして『実験講義』とする。

なお、受講者の関心によって、講義内容、講義手法は変更される場合がある。

教科書

特になし

参考書

特になし

授業計画

本講義は、酒井、関谷が担当するが、基本的には片方の教員の講義のみに参加すればよい（もちろん両方を受けても構わない）

①酒井 学際的対象（アイドル論）に関する講義を行う

②関谷 学際的教育、学際的研究に関する講義を行う（講義カリキュラム、学際研究ならではの複数領域、学際領域ならではのワークショップ・シンポジウム等の研究交流の手法）

なお、それぞれの教員が6～7回程度分の講義時間をあてるので、いずれか、もしくは両方に参加すること。